

## 市民活動における GIS 普及の要因分析 —熊谷うちわ祭における山車・屋台の位置情報を事例として—

坪井 塑太郎<sup>1</sup>, 酒井 聡一<sup>2</sup>, 後藤 真太郎<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 明治大学 文学部 地理学教室, <sup>2</sup> 立正大学 地球環境科学部 環境システム学科

連絡先: <sotarot@nifty.com>

- (1) **目的:** インターネットの普及はサイバー空間における「人と人」の連携を可能にした一方で、これを実空間における「人と地域」の連携に援用する方法については、これまでその必要性は提唱されてきたものの、実際に検証した研究は少ない。本研究ではこの点に着目し、地域祭礼における「共同性の可視化」の観点から、埼玉県熊谷市「うちわ祭」での山車・屋台位置情報を事例とし、市民活動における GIS 普及の要因について検討する。
- (2) **方法:** 本研究で用いたシステムは、GPS により山車の位置を取得し、GIS を用いてパソコンと携帯電話向けにリアルタイムで位置情報を提供するものである(図 1)。同様のシステムは、弘前ねぶた祭り、浅草三社祭等においても導入の事例があるが、これまでのところ利用実態に関する調査については報告されておらず、本調査においては、うちわ祭会期中の 2007 年 7 月 20 日(金)から 22 日(日)にかけ、無作為での来訪者アンケート調査により得られた全 265 名の回答をもとに分析を行った。
- (3) **結果:** 本システムの利用者は、回答者全体では 30 名(12.0%)であり、一昨年の試験導入以後、新聞報道等でその認知を事前に得ていた属性において使用率が有意に高い傾向が見られた(表 1)。また、日常的にインターネットを介した地図 Web-GIS を利用している割合が高いほど GIS への期待効果が高く、その志向は「行動利便性の向上」「地域への関心の向上」「地域交流の活性化」とも高いことが明らかになった(図 2)。
- (4) **考察:** 今後の市民活動における GIS 普及促進のためには、広報・掲示拡充による認知向上の施策や、デジタルデバイスに配慮したインターフェースの開発・改良、さらに地域情報コンテンツの充実を図るなど日常からの利用度を向上させるための方法論を確立していくことが重要であると考えられる。
- (5) **意義:** 市民活動における GIS 導入は、「外部」に対しては情報の可視化により、参加者の増加や地域理解の促進と活性化の装置として、「内部」に対しては人と地域間の連携強化や地域愛着度(場所愛)向上のための HUB として機能することが期待される。また、住民自身による情報発信や安全・安心につながる地域内の情報共有の促進も期待される。本研究は、大学での研究成果を実際に援用することにより、これを社会技術として確立させると同時に、地域活性化に資する意義を持つ。
- (6) **その他:** 本研究は、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター整備事業「ジオインフォマティクスの地域利用及び環境教育への適用に関する研究」(代表:後藤真太郎)により実施した。

表 1: 山車・屋台位置情報の認知と使用状況

		認知		合計
		はじめて	以前から	
使用経験	既使用	9	21	30
	未使用	170	51	221
合計		179	72	251



図 1: 熊谷うちわ祭—山車・屋台位置情報 PC 画面

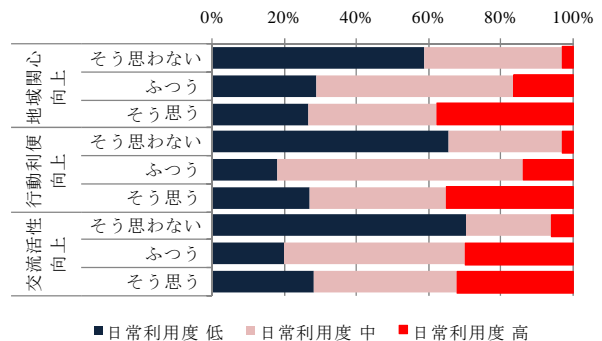


図 2: Web-GIS 利用度別の GIS 期待効果